

## 岐美 格 先生を偲んで

牧野俊郎（1972(S47)国友研卒、2013(H25)名誉教授）



京都大学名誉教授 岐美 格(みちよし いたる)先生は、2021(R03)年6月7日 急性肺炎のために94歳でお亡くなりになりました。ご葬儀は、先生のご遺志によりご近親の方だけで行われた とのことです。

四十九日が過ぎ、新盆が過ぎ、大文字の送り火も過ぎ、いまになりましたが、私どもからも、謹んで また 心から ご冥福をお祈り申し上げます。

岐美先生は、1926(T15)年6月27日、京都にお生まれになりました。先生は、終戦直前の1945(S20)年4月に京都帝国大学に入学されました。終戦を経て名称の改められていた京都大学の工学部機械工学科を1948(S23)年3月に卒業されました。同大学院を経て、1953(S28)年に工学部講師に採用、1956(S31)年には同学部助教授に昇任されました。

1958(S33)年には、13年間 学生・教官として在籍された機械工学科を離れて、工学研究所助教授に配置換になりました。1961(S36)年には、工学部教授に昇任され原子核工学科原子炉工学講座を担当されました。以来28年間にわたり原子核工学科の教授としてお務めでしたが、1989(H01)年に松江工業高等専門学校校長に配置換になりました。京都大学の教官としては36年間勤務されたこととなります。京都大学は 同年 先生に京都大学名誉教授の称号を贈りました。松江工業高等専門学校校長は1995(H07)年までの6年間お務めになりました。

京都大学での教官、松江高専校長の とき の長さを合わせると先生の教育・研究歴は42年間に及びます。先生の教育研究のご専門は、広く 原子炉工学・エネルギー変換工学などであったと伺います。先生は、私どもにとって、まさに大先輩・大先生でありました。

この間 岐美先生は、大学・高専での教育・研究のみならず、京都大学評議員・文部省熱工学研究連絡委員会(熱研連)委員、国立高等専門協会副会長などの公職に就かれ、また、日本伝熱研究会会長、日本機械学会副会長、日本原子力学会理

事などの学会役員をお務めになり、組織の運営のためにも多大のご努力をなされました。これらのご貢献に対して、多数の学会賞が贈られ、また1999(H11)年の春の叙勲では勲三等旭日中綬章が授与されました。

以上の岐美先生のご履歴について より詳しくは、芹澤昭示名誉教授が日本伝熱学会誌『伝熱』の本年10月号[1]に追悼記事を記されると伺っています。その記事は本年10月中旬以降はネット上でも一般に閲覧することができます。芹澤先生は原子核工学科で岐美先生から直接に長くご指導を受け 岐美先生の後継者になられた方であり、その追悼文は先生のお人柄・人間性についても具体的に また尊敬を込めて述べられると想像しています。ぜひお読みいただきたくお勧めします。また、先生がおもに松江工業高等専門学校校長の時代にとり組まれた“枕草子と徒然草における自然”の研究については、この『京機短信』の本号(9月号[2])が発行の直後に発行される特別号[3]に掲載されます。

岐美先生は 京機会の総会などの会合にはよく出席してくださいました。最近では出席者のなかで最高齢の方におなりになっていましたが、お元気そうで風格・気品があって、しかも大らかで気軽に話せる方でいらっしゃいました。また私が大学の新年会に出るようになってからは、そこでも、よくお目にかかりました。たぶん自然に 背筋を伸ばして立ち、歩き、座っても、目が合うと いつも にっこりとして くださいました。温かい目でした。

私が学生・助手であった1970年代に、私のいた国友研究室の勉強会では、『伝熱研究の進展』1~4巻という養賢堂発行のシリーズ本のうち、国友先生が記された第2巻のうちの一編を勉強している時期がありました。そのころシリーズの第4巻の一編に京都大学教授の 岐美 格 という方が書かれた沸騰伝熱の部分があることを知りましたが、聞けば、その方は国友 孟 先生の先生である佐藤 俊 先生を通じて親戚すじの研究室の偉い先生で、お公家さんの すじの方でも いらっしゃるそうでした。

そんな頃 ある学会の講演会で、たまたま岐美先生が座長をしておられるセッションに紛れ込んでしまったときに、先生が、新しい研究法が いつも従来の研究法より優れているという考え方は受容しがたい との趣旨の発言をされたのを聴き、印象に残りました。

また、ある学会の総会の会計報告の場で、先生が資料の会計報告書の表を ざっ

と診るやいなや、表を片手に立ち上がって、「この表の計算は どこかおかしい」と断言されたことがありました。学会の執行部は 慌ててその場で計算をやりなおし、「間違いがありました、お詫びして訂正させていただきます」と あいなりしました。あとで、先生に近づいて、「どうしてあんなことがわかったのですか、算盤の暗算の何段かでいらっしゃるのですか？」とお尋ねすると、「なあに、下1桁目の足し算をやっただけだよ」とご返事がありました。そうなのだ、それで正しいかどうかは分からなくても間違っているのは分かるのだ、と教えられました。

先生がお公家さんのご出身であるとの聞いていたことについてですが、一度だけご本人から遠回しに伺ったことがあります。先生も出席された なにかの会合がJR京都駅の近くであったときに、京都大学の北西方にある拙宅に帰るときに、お誘いして 烏丸通りをアガリ岐美邸に近い地下鉄北大路駅の近くまでタクシーで一緒にいただいたことがありました。タクシーが京都御所を含む京都御苑のあたりを走っていたときに、「先生んちは このあたりにあったんですかねえ？」とお尋ねしたところ、先生からは、「昔はねえ」と軽くお応えがあったのを憶えています。

先生のお弟子さんのある方からは、「岐美」の「岐」は 伊邪那岐の命(いざなぎのみこと)の「岐」、「美」は 伊邪那美の命(いざなみのみこと)の「美」であると聞いたことがあります。ただ、これは先生ご自身が仰ったことではないので、ほんとうのことであるか否かは分かりません。

京都大学機械系工学教室が創立100年を越えて新しい世紀に入った2001(H13)年に、機械系工学教室は駒井謙治郎教授(当時)を代表として第二世紀記念事業を立ちあげ記念誌[4]を発行しましたが、その記念誌には‘百人一言’(実際には66人/68件)という章を設けました。その章には、1948(S23)年のご卒業の方では田中吉之助先生[5]と岐美 格先生[6]が学生時代の思い出をお寄せくださっています。そこには、菊川清作・西原利夫・菅原菅雄・佐藤 俊・藤本武助 の先生方のお名前とともに、終戦の日1945(S20)年8月15日の教室のようすが描かれています。

『京機短信』2020(R02)年4月号[7]には、京都帝国大学が1897(M30)年の創立以来1990(H02)年までの機械系工学科の教授の肖像資料を示しました。岐美先生なら、その全員の方々のお顔をご存じであったであろうと推察されます。

1897(M30)年に京都帝国大学が創立されたときに開設されたのは理工科大学の土木工学科と機械工学科との2学科だけでした。機械工学科の最初の教授にな

られたのは朝永正三先生でしたが、朝永先生が実際に着任されたのは1898(M31)年であり、機械工学第一講座を担当されたのは1905(M38)年のことでした。

岐美先生は、機械工学科の初代教授になられた朝永正三先生から、系図的にもっとも直線的に繋がる、私には「親戚すじの研究室の先生」でありました。朝永先生については、この『京機短信』の2020(R02)年4月号[8]に示されています。系図の概要については、文献[9]に示されています。系図について より短くいうと、朝永先生の弟子の菅原菅雄先生が機械工学第一講座の後継者となられ、菅原先生の弟子の佐藤 俊先生・岐美 格先生のうち 佐藤先生が機械工学第一講座を継ぎ、岐美先生が新設の原子核工学科の講座に移るといった流れがあったということです。

岐美先生には、この少なくともこの10年くらいは年賀状を出させていただいておりますが、いつも「ご健康をお祈りいたします」などと こちらのほうの健康を思いやってくださる 楷書で読みやすい手書きの賀状を お正月中にはお返しくださっていました。それが ことしは ありませんでした。芹澤先生によれば、お正月中にはとくにお悪くなかったようですが、結果的に 昨年いただいた賀状が岐美先生からいただいた最後の賀状になってしまいました。

改めて、岐美先生のご冥福を、謹んで また 心からお祈り申し上げます。

[1] 芹澤昭示：岐美 格先生を偲んで，伝熱，2021年10月．

[https://www.htsj.or.jp/wp/media/2021\\_10.pdf](https://www.htsj.or.jp/wp/media/2021_10.pdf)

[2] 牧野俊郎：岐美 格 先生を偲んで，京機短信，2021年9月．

[https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2021/09/tanshin\\_no358.pdf](https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2021/09/tanshin_no358.pdf)

[3] 岐美 格：“枕草子と徒然草における自然”，京機短信，2021年9月．

[https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2021/09/tanshin\\_no359.pdf](https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2021/09/tanshin_no359.pdf)

[4] 京都大学機械系工学教室第二世紀事業会編：京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌，百年一言，百年一言，148-245頁，2001年3月．

[5] 田中吉之助：1945年，京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌，百人一言，168-169頁，2001年3月．

[6] 岐美 格：学生の頃，京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌，百人一言，169-170頁，2001年3月．

[7] 牧野俊郎，吉田英生：京都大学機械系工学教室の礎を築いた教授たちの肖像

写真, 京機短信, 第340号, 2-7頁, 2020年4月.

[https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/11/tanshin\\_no340.pdf](https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/11/tanshin_no340.pdf)

- [8] 牧野俊郎 : 朝永正三先生と佐瀬武雄さんの卒業證書(日本の高等教育史の貴重資料), 京機短信, 第79号, 1-5頁, 2008年1月.

[https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin\\_no79.pdf](https://keikikai.jp/wp-content/uploads/2020/04/tanshin_no79.pdf)

牧野俊郎 : 朝永正三先生と佐瀬武雄さんの卒業證書, 京都大学高等教育研究, 第14巻, 105-110頁, 2008年12月.

<https://hdl.handle.net/2433/70824>

- [9] 京都大学機械系工学第二世紀事業会 : 京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌, 京都大学機械系工学教室小史, II. 講座・分野, 1. 機械工学第一講座, 45頁, 2001年3月.